

〔補完的園芸作物の特性調査および実用化試験〕  
 クルクマ品種の2年目の収穫特性

野呂孝史・野口 貴・椿 真由巳\*  
 (三宅島園芸技術センター・\*園芸部)

【要 約】クルクマ「据え置き栽培」2年目の品種特性を調査した結果、一部の品種を除き、1年目より発芽、開花は早まり、収穫花数も増加する。

【目 的】

昨年度、球根増殖のため「三宅村ゆめ農園」に導入されたのを機会に、品種特性を明らかにした。本年度は「据え置き栽培」2年目における収穫特性を中心に検討する。

【方 法】

2002年、16品種を導入し、4月に球根を植付けた（ハウス内の高さ約20cmの木枠栽培床に20cm×20cmの栽植距離）。収穫調査終了（10月下旬）後も掘上げず、12月から最低夜温10℃に設定、加温した（測定最低気温は6℃）。2003年4月に10a当たり10kg（三要素成分量）の施肥を行い、その後も約1ヶ月間隔の同量追肥とした。

【成果の概要】

- 1) 発芽および開花開始（表1）：ほとんどの品種は昨年度より早く、2週間以上早い品種が多くみられた。発芽が認められなかった株は全品種でみられ、欠株率10%以上を示したのは5品種であった。なおエメラルドバコダは昨年度発生 of 疫病による欠株も含まれている。開花開始も概して早く、ポ・オレンジおよびピンクなど6品種は約1ヶ月早かった。発芽から開花までの日数には大きな差異はみられず、その中で、キャンディーケーン他4品種は著しく短縮された。これらはすべて昨年度植付け時には貯蔵根が欠如した品種である。
- 2) 収穫花数（図1）：開花が著しく遅れたロ・ドワーフホワイトは昨年度より少なく、またサイアムルビーなど同程度の品種もみられたが、多くの品種は増加した。これは6、7月（品種によっては8月）の収穫花数が増えた品種であった。なお各品種とも9月中旬から花梗長が短く、花も小さくなる傾向がみられた。
- 3) 着生球根数（表1）：11月7日に掘上げ調査を行った。20個前後の品種が多いが、品種間差がみられ、ポ・オレンジおよびピンクなど5品種は10個以下と少なかった。また各品種とも、昨年度および本年度着生の球根数は、ほぼ同数であった。
- 4) 以上、各品種とも昨年度と同様な特性を示しつつ、一部の品種以外は発芽、開花は早まり、また収穫花数も増えたことから、多くの品種は2年間の「据え置き栽培」に利用できると判断される。しかし品質、収量および球根増殖の改善には栽培品種に適した栽植距離、施肥量などの検討が必要と考えられる。来年度、植え替えて増殖を継続する品種は、ロ・ピンク、ロ・デューブピンク、ロ・ホワイト、キモノピンク、ピンクパール、ミスパール、キャンディーケーン、ポ・オレンジおよびポ・ピンクの9品種が予定されている。

表1 植え付け2年目の発芽および開花開始日

品 種 名	不発芽株率 %	発芽	開花	発芽から開花	掘上時
		開始日 月 日	開始日 月 日	までの日数 日	平均球根数 個
ロータス ピンク	3.9	4.25(5.23)	5.27(6.23)	32(31)	16.8
ロータス デイープピンク	3.9	5.7(5.15)	6.9(6.24)	33(40)	21.0
ロータス ホワイト	12.0	5.19(5.23)	7.1(7.10)	43(48)	15.1
ロータス ドワーフホワイト	3.3	5.7(5.23)	7.26(7.20)	80(58)	26.0
ロータス トロピカルスノー	3.3	5.19(5.23)	7.1(7.4)	43(42)	22.4
キモノピンク	2.7	5.9(5.23)	6.25(7.4)	47(42)	30.4
サイアムルビー	16.7	5.15(5.8)	6.5(6.6)	21(29)	10.5
ピンクパール	10.7	5.5(5.15)	5.27(6.6)	22(22)	24.0
ミスパール	2.0	5.15(6.6)	7.1(7.20)	47(44)	21.7
ミスパー	2.0	5.9(6.6)	6.25(7.20)	47(44)	26.6
エメラルドバコダ	28.7	5.7(5.8)	6.9(6.11)	33(34)	31.7
バイオレットトール	6.0	5.15(6.6)	6.12(7.25)	28(49)	3.5
キャンディーケーン	2.7	5.5(5.23)	5.30(7.23)	25(61)	13.2
ポニチャー オレンジ	4.7	5.15(5.23)	7.12(8.14)	58(83)	5.0
ポニチャー ピンク	25.3	5.12(5.30)	6.25(8.6)	44(68)	9.4
ロータス チェンマイスノー	1.3	5.7(5.15)	6.9(6.11)	33(27)	12.9
ロータス チェンマイスノートール	7.3	5.5(5.28)	6.5(7.23)	31(56)	9.0

( ) 内は昨年度

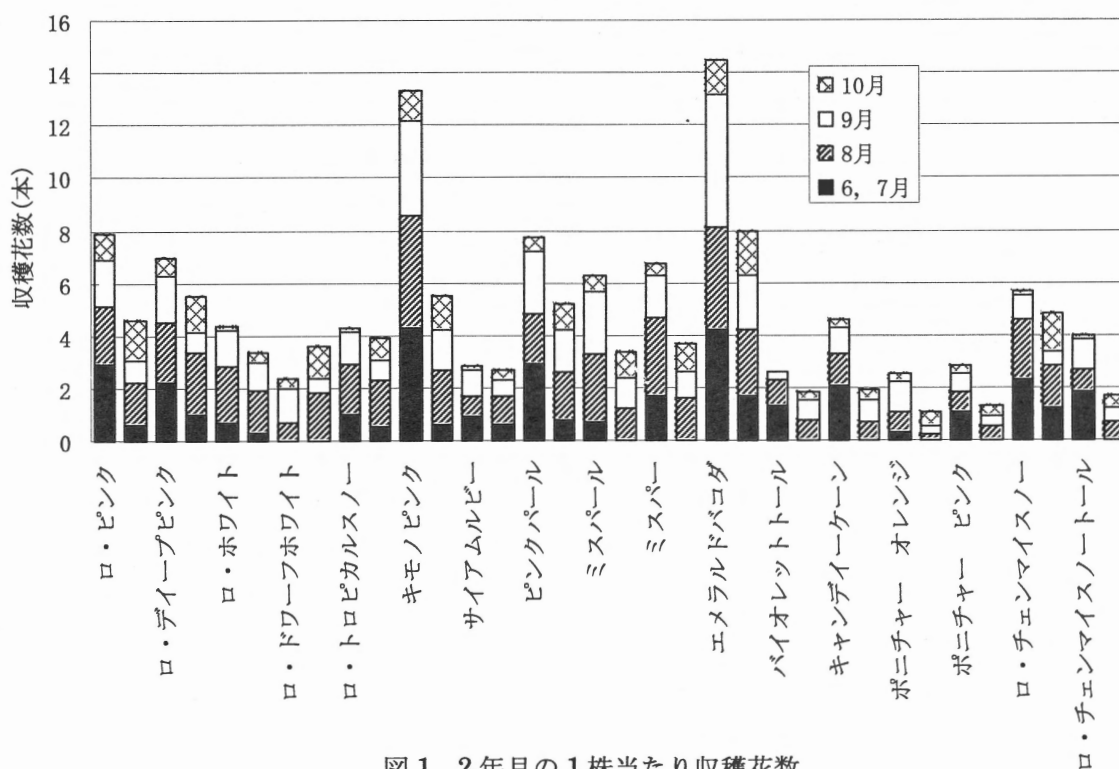


図1 2年目の1株当たり収穫花数  
(各品種,左グラフは本年度,右グラフは昨年度)